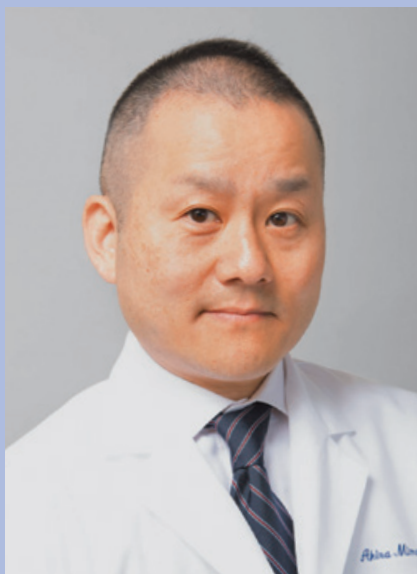


● 教室(診療科)の特色 ●

腎臓内科では腎疾患、透析療法に関する知識の修得や手技の習得だけにとどまらず、generalistとして全身を診ることができる医師の育成を目指します。体液恒常性を司る腎障害の影響は腎以外にもおよび、また全身性疾患の一分症として腎障害が起こることから腎臓内科は全身を診る科と言えますが、この点に関連する他科との連携が非常に重要です。当科では指導医とともにまずgeneralistとしてのトレーニングを行うことで、新内科専門医を取得できるよう全力でサポートします。同時にsubspecialtyとしての腎臓専門医を取得すべく、尿、血液検査所見、さらには腎生検により得られた腎組織所見に基づく診断、治療選択、さらには水・電解質異常への対応、血圧管理、末期腎不全に対する腎代替療法と広範囲にわたる高度な知識と技術を習得します。



美馬 晶(みま あきら)科長

■ 専門分野

腎臓病学、糖尿病性腎臓病、慢性腎臓病、透析療法

■ 主な経歴

平成 9年 秋田大学医学部医学科卒業 京都大学医学部老年科入局

平成10年 大阪赤十字病院内科 研修医

平成12年 静岡市立静岡病院腎臓内科 専攻医

平成20年 京都大学医学部附属病院腎臓内科 院内助教

平成20年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部腎臓内科学 助教

平成20年 ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センター 博士研究員

平成28年 近畿大学医学部奈良病院腎臓内科 講師・科長

平成31年 大阪医科大学内科学講座内科学Ⅲ 特別職務担当教員(教授)(現 大阪医科薬科大学)
大阪医科大学附属病院腎臓内科 科長(現 大阪医科薬科大学病院)

■ 主な学会/専門医資格

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医・近畿支部評議員/日本腎臓学会専門医・指導医・評議員

日本透析医学会専門医・指導医/日本老年医学会専門医・指導医・代議員/日本医師会認定産業医

Fellow of the American College of Physicians (FACP)

■ 研究課題

糖尿病性腎臓病、糖尿病性血管障害の進展・増悪メカニズムの解明とその治療法

腎障害バイオマーカーの開発

● 診療科の概要・特徴 ●

【治療の特色】

腎臓内科では、蛋白尿、血尿の検査から腎炎、ネフローゼ、慢性腎臓病(CKD)、糖尿病性腎臓病(DKD)、遺伝性腎疾患、末期腎不全、透析療法などのあらゆる腎臓病の治療を行っています。腎生検組織に基づいた診断を行い、ステロイドや免疫抑制剤による加療を行います。IgA腎症に対する扁桃腺摘出術+ステロイドパルス療法も積極的に行っています。CKDやDKDに関しては集学的治療と食事療法を含めた自己管理により進行抑制だけでなく寛解導入が得られる可能性もあります。当科では食事療法の習得と内服薬の調整目的で教育入院を実施しています。これらにより年間約180例の入院症例があり、さらに年間外来述べ患者数は4,000人近くになることから、豊富な症例を背景とした充実した研修を行うことが出来ます。

【女性医師支援】

ライフイベントと腎臓専門医の教育期間が重複する女性医師のキャリア形成支援を当科では積極的に行います。勤務日数や勤務形態などは個別に対応しますが、本大学の女性医師支援制度(短時間勤務制度など)を活用することで、出産や子育ての期間も安心して勤務していただけます。当科の研修で習得可能な透析マネジメント臨床力により、透析関連施設での勤務が可能になりますが、このことは常勤医として勤務困難な場合のキャリア形成あるいはスムーズな臨床復帰にとって大きなアドバンテージとなります。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	専門領域
森 龍彦(医学教育センター 専門教授)	総合内科専門医、腎臓専門医、高血圧専門医、循環器専門医	腎疾患全般
大井幸昌(助 教)	総合内科専門医、感染症専門医、リウマチ専門医	腎疾患全般、感染症学

■連絡先：大阪医科薬科大学腎臓内科 TEL:072-683-1221/e-mail:akira.mima@ompu.ac.jp
 ■ホームページ：<https://hospital.ompu.ac.jp/departments/m11/index.html>

初期臨床研修プログラムの特徴

大学病院としての豊富な症例をもとに内科的腎臓疾患の診療を幅広く経験できます。わが国の慢性腎臓病患者は1,000万人以上と推定されており、腎臓病のプライマリケアの習得は、一般医として内科全般の診療技能の向上に必須です。また、腎臓病は、全身疾患と密接に関連があるので、膠原病、血液疾患、循環器、消化器疾患等を診断し、それぞれ専門の科と協力して診療に当たる機会が多いことが特徴です。

本プログラムにおいては、病棟の患者、他科からコンサルトを受けた患者を、上級医と一緒に診療し、また、週に2～3回のレクチャーを通して、検尿異常から、腎炎・ネフローゼ、腎不全、水電解質異常に対するアプローチを習得します。セミナーや他の施設との合同の症例検討会を通して、腎臓内科医がどのように診断や治療に向けてアプローチをしているのかについても学ぶことが出来ます。

研究会や学会での発表も定期的に行っており、プレゼンテーションや発表のトレーニングも自然に体得できるよう工夫している他、グループ診療かつOn-Offのはっきりした診療体制を布いています。

研修内容と到達目標

<1年目>

内科的腎疾患を幅広く担当医として受け持ち、主治医、指導医と共に診療する。到達目標は以下の通り。

- ①一般医に必要な内科的腎疾患についての基本的知識・診療技能を身につける。
- ②腎臓疾患を中心とした主要症候(尿検査異常、尿量異常、浮腫、貧血等)を経験し理解する。
- ③一般尿検査、尿化学検査の結果を理解し説明できる。
- ④腎臓と全身疾患の関わりについて理解し説明できる。
- ⑤血液透析を始めとする血液浄化療法を経験する。
- ⑥症例検討会や組織検討会などを通じてより深い知識や考察力を身につける。
- ⑦プレゼンテーションの基礎を身につける。



尿沈渣検鏡

<2年目>

より多くの症例を担当医として経験することで、診断、治療計画を立案する能力を養成する。到達目標は以下の通り。

- ①腎炎、腎不全、水電解質異常の診断と治療への理解を深める。
- ②腎生検の適応判断能力を身につける。
- ③腎病理組織の診断法を理解する。
- ④血液透析を始めとする血液浄化療法全般について、それぞれの適応を判断し経験する。
- ⑤慢性腎臓病の生活指導、食事指導、薬物治療について理解し説明できる。
- ⑥さらに希望者には専門医(後期)研修を見据えた手技、技術の習得を支援する。
- ⑦研究会や学会で自らスライドを作成し、発表することができる。

研修病院群

大阪医科薬科大学病院

評価方法

上記到達目標それぞれについて別に定めるチェックリストに基づいて評価する。

内科研修プログラムの週間スケジュール:腎臓内科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟、外来	病棟、外来	病棟、外来	病棟、外来	病棟、外来	病棟
午後	病棟、外来	科長回診 クリニカルカンファレンス 病理組織検討会セミナー 抄読会	病棟、外来	腎生検 透析カンファレンス(血液浄化センター、腎泌尿器科と月2回)	病棟、外来	

後期研修プログラムの特徴

一般医として必要な基本的事項を学ぶ初期研修とは異なり、専門医になることを前提とした内容にレベルアップします。上級医と連携し十分な議論のもとに診断・治療にあたることにかわりはありませんが、初期研修ではともすれば受け身となり上級医に指示された業務をこなすだけに終わることもあるので、後期研修では主治医として主体性をもって取り組むことを求めます。すなわち個々の診療において主治医としての裁量を最大限に認める方針とし、腎生検などの観血的手技は上級医の指導のもと、極力、自ら実践し習得してもらいます。他科よりのコンサルト、初診患者の外來診察を上級医と共に行ってもらいます。

研修プログラム

<3年目～4年目における研修方法>

プログラム指導責任者:科長 美馬 晶

- ①腎臓内科入院患者を主治医として受け持ち、上級医の指導のもとに診療する。
- ②内科的腎疾患全般について、病態を把握し診断・治療計画を立てる。
- ③腎生検の適応を判断し、超音波穿刺法・組織診断を習得する。
- ④各疾患に対する薬物療法、血液浄化療法などの適応について自分で判断できる。
- ⑤各検査・治療に際し患者への説明を行い、同意を得ることができる。
- ⑥経験した症例から発表の意義のあるものを選び学会発表し、上級医の指導のもと論文投稿を行う。
- ⑦日常臨床から生じた疑問をクリニカルクエスチョンとして提示できる。



腎生検

研修内容と到達目標

到達目標は、日本腎臓学会の腎臓専門医研修カリキュラム(日本腎臓学会誌44巻2号に掲載)のうち内科系腎臓専門医対象のものとする。各学会とも専門医資格申請には一定の経験症例の報告を義務付けているため、これらが不足なく経験できるよう配慮する。

プログラムに参加する医療機関等

新内科専門医プログラム参照

取得できる認定医・専門医

日本内科学会内科専門医、日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医、日本高血圧学会専門医

主な関連病院

過去に派遣実績のある施設

国立病院機構大阪医療センター／兵庫県立西宮病院
大手前病院／兵庫医科大学病院／市立豊中病院
大阪市立総合医療センター／信楽園病院／大阪大学／三康病院
吉田病院／大野記念病院／ハーバータウンクリニック
新潟大学／曽根病院／三康クリニック／蘇生会病院

教育、研究協力施設

国立循環器病研究センター 高血圧・腎臓科
神戸市立医療センター中央市民病院 腎臓内科
島根医科大学 腎臓内科
香川大学医学部 薬理学教室
大阪薬科大学 病態分子薬理学教室

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

基礎医学による発見が臨床医学の進歩をもたらします。臨床医学との連携した研究を推進し、臨床へのフィードバックを目指したトランスレーショナルリサーチの展開を目指します。世界を視野に入れたグローバルな研究を遂行する、優れた研究者、臨床医を育成しますが、サイエンスに基づいた医療を実践でき、人間性豊かな医師を育てるのが目標です。

現在の主な研究内容

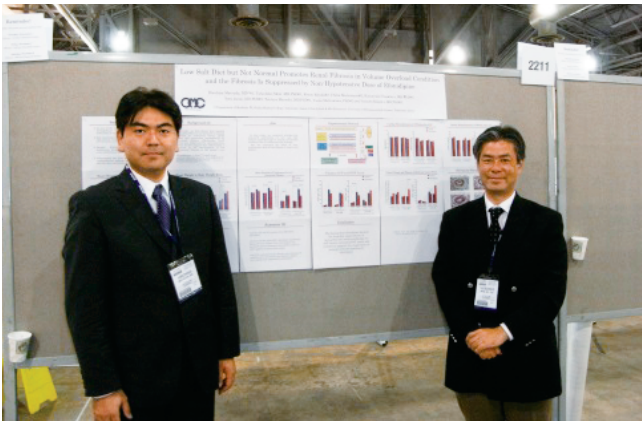
基礎研究

- ① 腎インスリンシグナルを用いたDKDの新規治療法開発
- ② プレバイオティクスによる腸内フローラ改善効果とCKDへの影響
- ③ チロシンキナーゼ阻害剤を用いたDKDにおけるポドサイトアポトーシス抑制効果の検討
- ④ エイコサペンタエン酸によるEndothelial-to-Mesenchymal Transition抑制効果を応用したCKDの新規治療法開発
- ⑤ 尿細管障害モデルへの著明な減塩が腎、心に与える影響
- ⑥ T/L型カルシウム受容体拮抗薬であるニホジピンによる腎、心保護効果
- ⑦ 近位尿細管障害、心血管病、交感神経の連関について
- ⑧ 塩分摂取量と造影剤腎症発症との関係

臨床研究

- ① CKDにおける無症候性脳血管障害の検討
- ② 和食を用いた投薬に頼らないDKD治療法の開発
- ③ 維持血液透析患者における腸内フローラと炎症、酸化ストレスの関係
- ④ 維持透析におけるリン吸着剤の変薬効果の検討
- ⑤ 透析データベースによる診療活用とその効果
- ⑥ 維持血液透析患者における健康診断項目の実態調査
- ⑦ 保存期腎不全における早期高リン血症介入効果の検討
- ⑧ 腎生検病理組織像と臨床検査の比較検討

研究成果は国内外の学会において発表、また、原著論文として報告しています。



院生 米国腎臓病学会発表(フィラデルフィア)